

経済学院入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

現代経済経営専攻修士課程

博士コース

北海道大学大学院経済学院現代経済経営専攻（博士コース）は、経済・経営分野の深い学識・幅広い視野、そして豊かな創造的能力を有する研究教育者の育成を教育目標とする。そのため入学試験においては、基礎的な学力に加えて、①経済・経営に対する感性、②志望する研究分野・研究課題に関する知識、③基礎的な研究方法の習熟度や分析能力、④思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び⑤継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質を備えた人材を選抜する。選抜に当たっては、経済・経営研究に対する社会の多様なニーズに応えうる人材の確保を志向する。

なお、入学する学生は、大学においてマクロ・ミクロ経済学、経済思想、経済史、統計学、オペレーションズ・リサーチ、経営学、会計学のうち、受験生自身の専門に深く関連する分野、および、英語について学習していることを期待する。

入学者選抜の基本方針

1. 一般入試及び外国人留学生特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識及び基礎的な研究方法の習熟度や分析能力については学科試験により、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
2. 特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識及び基礎的な研究方法の習熟度や分析能力については学業成績により、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
3. 外国人留学生海外特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識、基礎的な研究方法の習熟度や分析能力、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については出願書類により評価し、入学者を選抜する。

評価方法の比重

入試区分	基 礎 的 な 学 力	経 済 ・ 経 営 に 対 す る 感 性	志 望 す る 研 究 分 野 ・ 研 究 課 題 に 関 す る 知 識	基 礎 的 な 研 究 方 法 の 習 熟 度 や 分 析 能 力	思 考 力 ・ 表 現 力 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 な ど の 知 的 能 力	継 続 的 ・ 発 展 的 な 教 育 ・ 研 究 に 耐 え う る 資 質
一般入試	○	◎	◎	◎		

および外国人留学生特別入試	面接（口述試験）					◎	○
特別入試	学業成績	○	◎	◎	◎		
	面接					◎	○
外国人留学生海外特別入試	出願書類	○	○	○	○	○	○

※◎：重視する要素，○：総合的な判断となる要素

専修コース

北海道大学大学院経済学院現代経済経営専攻（専修コース）は、経済・経営分野の高度の専門的知識を有し、経済社会の発展に有為の高度専門職業人の育成を教育目標とする。そのため入学試験においては、基礎的な学力に加えて、①経済・経営に対する感性、②志望する研究分野・研究課題に関する知識、③高度専門職業に対する意欲・見識、④思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び⑤継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質を備えた人材を選抜する。選抜に当たっては、経済・経営分野の高度専門職業人に対する多様なニーズに応えうる人材の確保を志向する。

なお、入学する学生は、大学においてマクロ・ミクロ経済学、経済思想、経済史、統計学、オペレーションズ・リサーチ、経営学、会計学のうち、受験生自身の専門に深く関連する分野、および、英語について学習していることを期待する。

入学者選抜の基本方針

1. 一般入試及び外国人留学生特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識については学科試験により、高度専門職業に対する意欲・見識、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
2. 特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識については学業成績により、高度専門職業に対する意欲・見識、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
3. 社会人入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識については成績証明書により、高度専門職業に対する意欲・見識、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
4. 外国人留学生海外特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性、志望する研究分野・研究課題に関する知識、高度専門職業に対する意欲・見識、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの

知的能力及び継続的・発展的な教育・研究に耐えうる資質については出願書類により評価し、入学者を選抜する。

評価方法の比重

入試区分		基 礎 的 な 学 力	経 済・ 経 営に 対 する 感 性	志 望 する 研 究 分 野・ 研 究 課 題 に 関 する 知 識	高 度 専 門 職 業 に 対 する 意 欲・ 見 識	思 考 力・ 表 現 力・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 な どの 知 的 能 力	継 続 的・ 発 展 的 な 教 育・ 研 究 に 耐 え う る 資 質
一 般 入 試 お よ び 外 国 人 留 学 生 特 別 入 試	学 科 試 験	○	◎	◎	◎		
	面 接 (口 述 試 験)					◎	○
特 別 入 試	学 業 成 績	○	◎	◎	◎		
	面 接					◎	○
社 会 人 入 試	成 績 証 明 書	○	◎	◎			
	面 接 (口 述 試 験)				◎	◎	◎
外 国 人 留 学 生 海 外 特 別 入 試	出 願 書 類	○	○	○	○	○	○

※◎：重視する要素，○：総合的な判断となる要素

現代経済経営専攻博士後期課程

北海道大学大学院経済学院現代経済経営専攻博士後期課程は、経済・経営分野の深い学識・幅広い視野、そして豊かな創造的能力を有する高度研究教育者の育成を教育目標とする。そのため入学試験においては、基礎的な学力に加えて、①経済・経営に対する感性、②研究方法の習熟度や適応能力、③思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力、④継続的・発展的な研究に耐えうる資質を備えた人材を、⑤これまでの研究成果と今後の発展性を考慮して選抜する。

なお、入学する学生は、大学院修士課程において経済・経営の専門分野・外国語について学習していることを期待する。

入学者選抜の基本方針

1. 一般入試では、基礎的な学力については成績証明書及び外国語の能力を証明する書類により、経済・経営に関する感性及び研究方法の習熟度や適応能力については提出論文により、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力、継続的・発展的な研究に耐えうる資質及びこれまでの研究成果と今後の発展性については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
2. 特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性及び研究方法の習熟度や適応能力については提出論文により、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力、継続的・発展的な研究に耐えうる資質及びこれまでの研究成果と今後の発展性については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
3. 高度専門人特別入試では、基礎的な学力、経済・経営に関する感性及び研究方法の習熟度や適応能力については成績証明書、研究計画書及び研究業績により、思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力、継続的・発展的な研究に耐えうる資質及びこれまでの研究成果と今後の発展性については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。

評価方法の比重

入試区分		基礎的な学力	経済・経営に対する感性	研究方法の習熟度や適応能力	思考力・表現力・コミュニケーション能力などの知的能力	継続的・発展的な研究に耐えうる資質を備えた人材	これまでの研究成果と今後の発展性
一般入試	成績証明書	○					
	外国語の能力を証明する書類	○					
	提出論文		○	○			
	面接（口述試験）				◎	◎	◎
特別入試	提出論文	○	○	○			
	面接				◎	◎	◎
高度専門人特別入試	成績証明書	○					
	研究計画書		○	○			

	画書						
	研究業績		○	○			
	面接（口述試験）				◎	◎	◎

※◎：重視する要素，○：総合的な判断となる要素

会計情報専攻（会計専門職大学院）

北海道大学大学院経済学院経済学院会計情報専攻（会計専門職大学院）は、21世紀に相応しい高度な専門性と幅広い視野，そして社会的責任感と倫理観を備えた会計専門職の養成を目指している。教育目標は、(1)ビジネスの先端で活躍できる会計専門職及び(2)地域社会に貢献する会計専門職の養成である。本一般入試においては、こうした教育目標に鑑みて、基礎的な学力に加えて、①会計専門職教育の基礎となる会計知識，②社会経済問題に対する関心と理解及び③社会的公正性に対する認識を身につけた人材を選抜する。

なお、入学する学生は、大学において「簿記（論）」，「財務諸表論（財務会計論）」，「管理会計論」，「原価計算論」，「監査論」等について学習していることを期待する。簿記（論）は、会計学を理解する上での基礎であり、十分な理解が求められる。「財務諸表論（財務会計論）」，「管理会計論」，「原価計算論」，「監査論」は、会計が実務でどのように利用されているかを理解するために必須の知識である。

入学者選抜の基本方針

1. 一般入試では、基礎的な学力については成績証明書により、会計専門職教育の基礎となる会計知識については学科試験（専門科目（共通科目））により、社会経済問題に対する関心と理解及び社会的公正性に対する認識については学科試験（専門科目（選択科目））により評価し、入学者を選抜する。
2. 特別選抜入試では、基礎的な学力、会計専門職教育の基礎となる会計知識については出願書類により、社会経済問題に対する関心と理解及び社会的公正性に対する認識については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。
3. 特別入試では、基礎的な学力、会計専門職教育の基礎となる会計知識については出願書類により、社会経済問題に対する関心と理解及び社会的公正性に対する認識については面接（口述試験）により評価し、入学者を選抜する。

評価方法の比重

入試区分		基礎的な学力	会計専門職教育の基礎となる会計知識	社会経済問題に対する関心と理解	社会的公正性に対する認識
一般入試	成績証明書	○			
	学科試験（専門科		◎		

	目（共通科目）				
	学科試験 学科試験 （専門科目（選択科目））			◎	○
特別選抜 入試	出願書類	○	○		
	面接（口述試験）			◎	◎
特別入試	出願書類	○	○		
	面接（口述試験）			◎	◎

※◎：重視する要素，○：総合的な判断となる要素